平成25年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大　阪　市　立　本　田　小　学　校	児童数	90

平均値

	種目別平均								
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ	体力合計点
男子	14.46	19.02	27.09	42.26	49.73	9.20	162.73	21.58	52.13
大阪市	16.45	19.14	32.01	38.22	47.80	9.38	149.19	23.45	52.26
全国	16.63	19.54	32.74	41.41	51.41	9.38	152.07	23.19	53.87
女子	14.33	16.26	34.71	39.17	37.90	9.58	149.57	11.14	52.21
大阪市	16.00	17.41	36.30	35.86	36.32	9.65	140.82	14.06	52.84
全国	16.14	18.06	36.87	39.06	39.66	9.64	144.55	13.94	54.70

結果の概要

反復横とび、50m走、立ち幅とびでは、全国・大阪市の平均を上回っているものの、全般的には、全国・大阪市　の平均を下回っており、体力、運動能力および運動に対する意識や機会のすべてにおいて課題が大きい。また、睡眠時間や朝食についても良い習慣が身についているとは言い難い。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまで、各学級で日を決めて計画的に全員での外遊びをしているが、高学年になるほど委員会活動等で実施が難しくなっている。冬季には体育朝会としてかけ足となわとびの時間を設定しているが、期間は限られており、継続的に取り組める児童は多くないのが現状である。

日常的に各学級で外遊びに積極的に取り組むこと、体育朝会を中心に体力づくりに取り組むことが必要である。また、目標設定と記録測定を行い計画的に指導するなど体育の授業を充実していくことが必要である。健康生活についての意識づけと家庭への啓発も不可欠である。

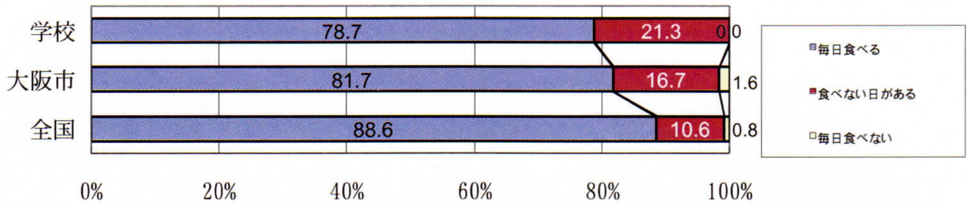
小学校男子　基本的生活習慣・運動のきっかけ

結果の概要

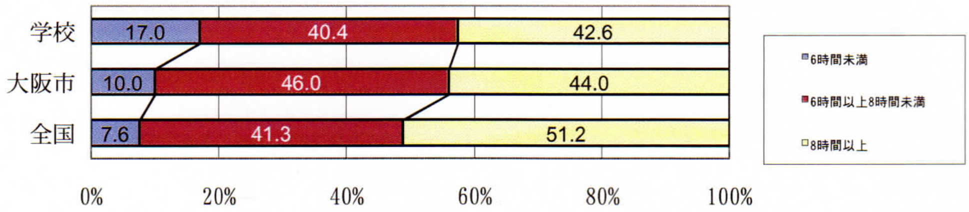
基本的な生活習慣（朝食・睡眠時間）について、全国平均・大阪市平均より好ましくない結果である。朝食については、食べる習慣は概ね身についているが、睡眠時間は平均を大きく下回っている。

運動のきっかけについては、全般的に強くきっかけになる項目はなく、特に運動に意欲を持っていないことがうかがえる。

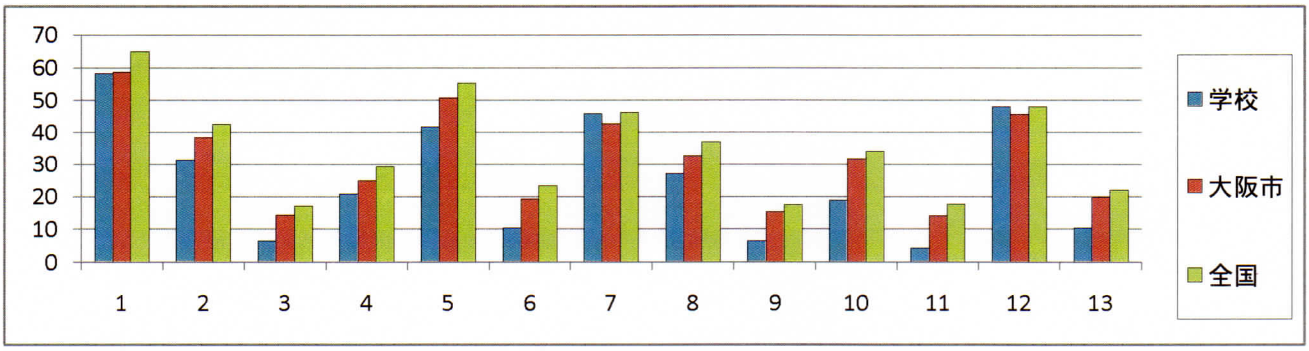
質問番号	質問事項
9	朝食は食べますか



質問番号	質問事項
10	1日の睡眠時間



12
今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。



1 自分が好きな種目、できそな種目があったら
2 上手にできなくても自分のペースで運動やスポーツを行うことができたから
3 授業でていねいに教えてもらえたら
4 一人でもできるものがあったら
5 友達といっしょにできたら
6 家族といっしょにできたら
7 いつでも自由に使えたり遊べたりする場所があったら
8 学校の中で自由な時間があったら
9 自分の体力、運動能力や体のことで不安なことがあったら
10 友達にさそわれたら
11 先生や家族からすすめられたら
12 運動やスポーツで活やくしている選手、有名人に教えてもらえたら
13 体型の変化に効果があると分かったら

成果と課題

基本的な生活習慣について、保健だよりや「健康がんばり週間」での自己評価を通して、意識の向上と家庭への啓発に努めているが、実態としては、学年が上がるほど睡眠時間の確保は難しくなっている。健康、体力向上のためには、体を動かすことの楽しさ気持ちよさを実感させていくことが大切である。

今後の取組

保健だより、食育だより、「健康がんばり週間」による意識の向上、家庭への啓発を継続するとともに、保健指導や食育の授業を通して、健康な生活習慣について振り返ることができるようにする。

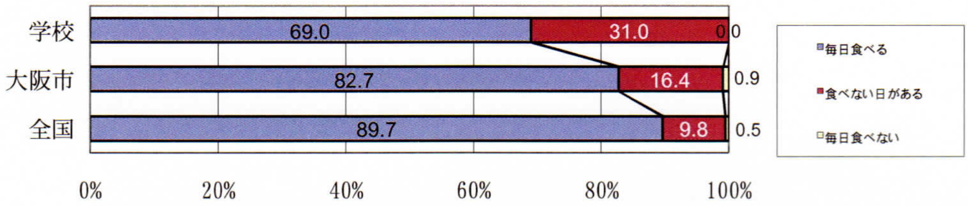
トップアスリートによる授業や学級、学年、学校全体で運動を楽しむ集会活動などを工夫して設定し、仲間と一緒に運動を楽しむきっかけをつくる。

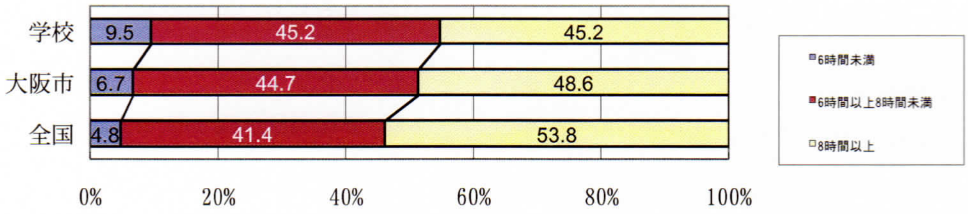
小学校女子　基本的生活習慣・運動のきっかけ

結果の概要

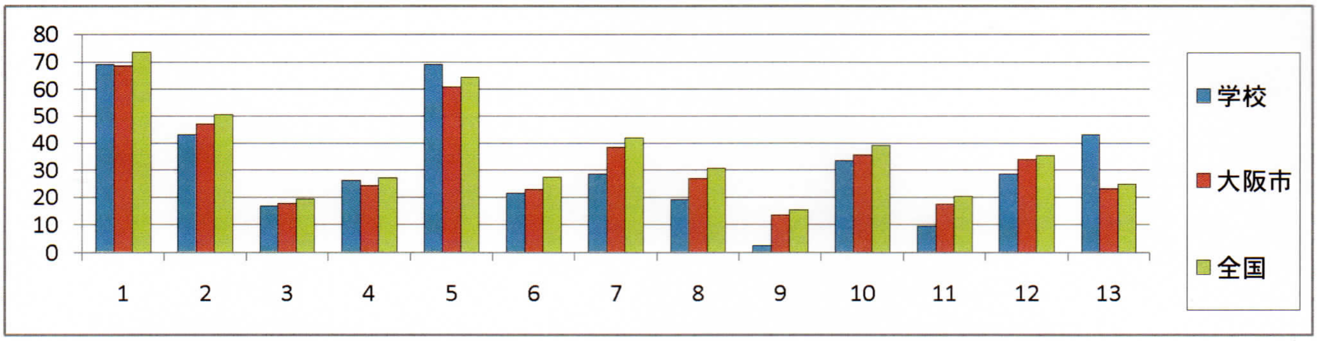
基本的な生活習慣（朝食・睡眠時間）について、全国平均・大阪市平均より好ましくない結果である。朝食については、食べる習慣は概ね身についているが、睡眠時間は平均を大きく下回っている。
運動のきっかけについては、仲間とともに活動することや体型への影響に意義を感じており、特に運動そのものに意欲を持っていないことがうかがえる。

質問番号	質問事項
9	朝食は食べますか
10	1日の睡眠時間





12
今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。



1 自分が好きな種目、できそうな種目があったら
2 上手にできなくても自分のペースで運動やスポーツを行うことができたから
3 授業でていねいに教えてもらえたら
4 一人でもできるものがあったら
5 友達といっしょにできたら
6 家族といっしょにできたら
7 いつでも自由に使えたり遊べたりする場所があったら
8 学校の中で自由な時間があったら
9 自分の体力、運動能力や体のことで不安なことがあったら
10 友達にさそわれたら
11 先生や家族からすすめられたら
12 運動やスポーツで活やくしている選手、有名人に教えてもらえたら
13 体型の変化に効果があると分かったら

成果と課題

基本的な生活習慣について、保健だよりや「健康がんばり週間」での自己評価を通して、意識の向上と家庭への啓発に努めているが、実態としては、学年が上がるほど睡眠時間の確保は難しくなっている。健康、体力向上のためには、体を動かすことの楽しさ気持ちよさを実感させていくことが大切である。

今後の取組

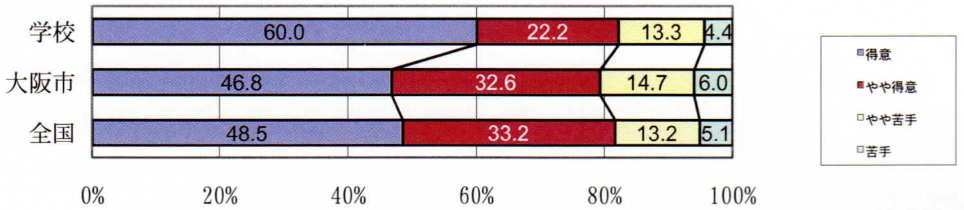
保健だより、食育だより、「健康がんばり週間」による意識の向上、家庭への啓発を継続するとともに、保健指導や食育の授業を通して、健康な生活習慣について振り返ることができるようにする。
トップアスリートによる授業や学級、学年、学校全体で運動を楽しむ集会活動などを工夫して設定し、仲間と一緒に運動を楽しむきっかけをつくる。

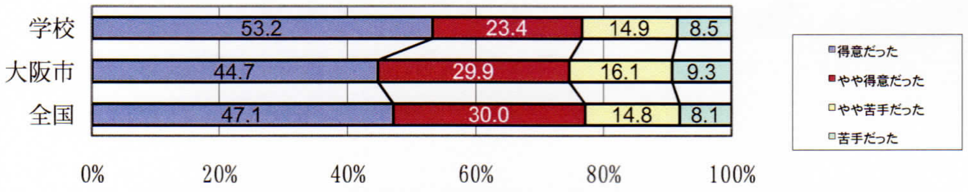
小学校男子　運動・スポーツに対する意識

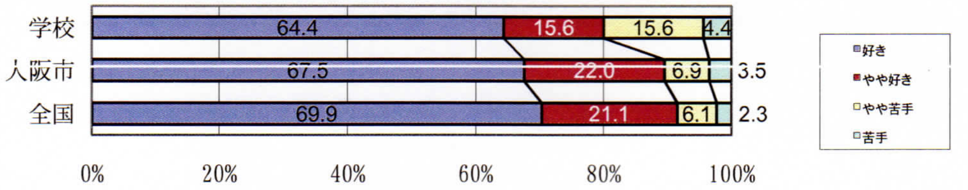
結果の概要

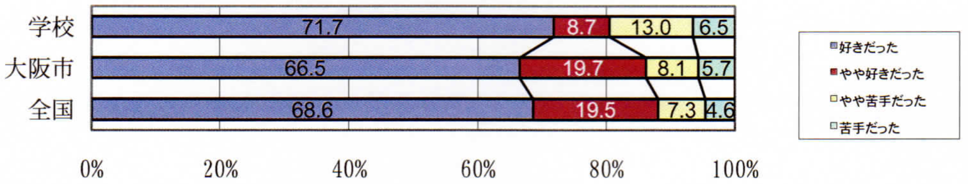
運動やスポーツを得意と感じている児童は全国平均、大阪市平均より多いが、運動やスポーツを好きと感じている児童は、全国平均・大阪市平均より少なくなっている。小学校低学年の頃より、好きと感じている児童は減っている。苦手意識を持っている児童は、大阪市平均よりも少なく、低学年の頃の意識と比べてもあまり変化が見られないようである。

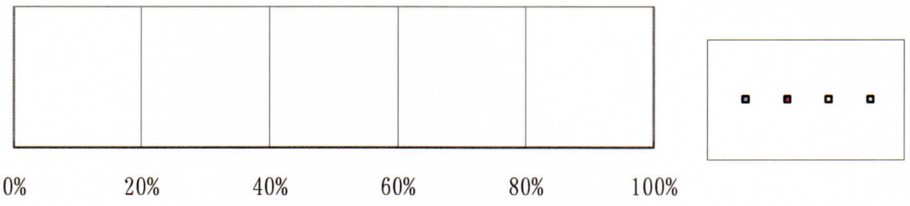
質問番号	質問事項
13	運動やスポーツをすることは得意ですか
26	小学校1，2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが得意でしたか
14	運動やスポーツをすることは好きですか
27	小学校1，2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが好きでしたか











成果と課題

運動やスポーツが得意と感じている児童は多いが、体力運動能力の調査結果では全国平均・大阪市平均より下回っている種目が多い。基礎的な体力運動能力よりも運動のゲーム的な要素に意識が向いていること、「得意・好き」と「苦手・嫌い」の児童に二極化が見られることが理由として挙げられる。体を動かすことそのものが楽しい・気持ちいいと実感できる取り組みが必要である。

今後の取組

外遊びや体育朝会を活用し、体力向上への意識を高める。「走」の種目について児童に目標を設定させて記録をとり、体力運動能力向上への意欲付けを図る。「走」の運動を重点として授業や遊びを計画的に行う。

トップアスリートによる授業や学級、学年、学校全体で運動を楽しむ集会活動などを工夫して設定し、仲間と一緒に運動を楽しむきっかけをつくる。

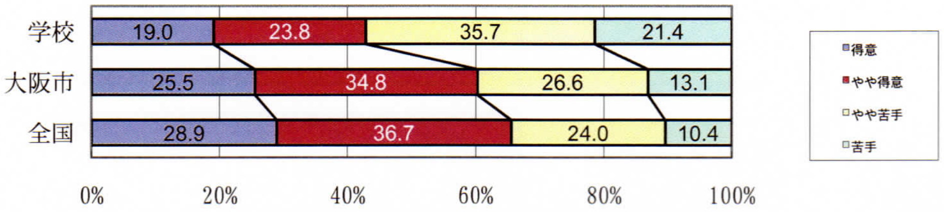
小学校女子　運動・スポーツに対する意識

結果の概要

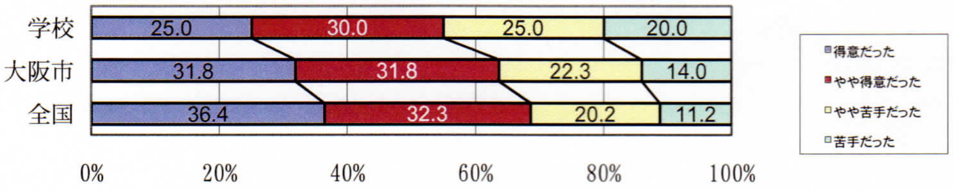
運動やスポーツを「得意・好き」と感じている児童の割合は、全国平均・大阪市平均を大きく下回っており、「苦手」と答えた児童は半数を超えている。

また、低学年の頃より「得意・好き」の割合は減っており、苦手意識を持っている児童の割合は増えている。

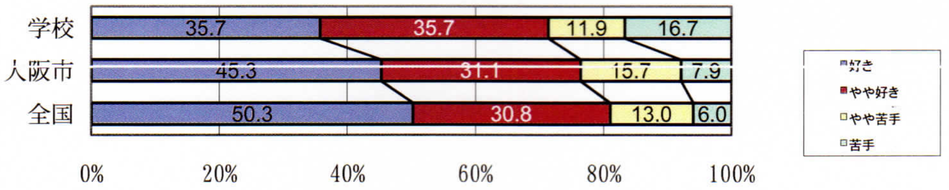
質問番号	質問事項
13	運動やスポーツをすることは得意ですか



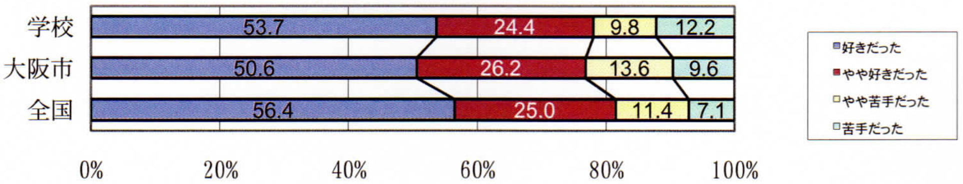
質問番号	質問事項
26	小学校1，2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが得意でしたか

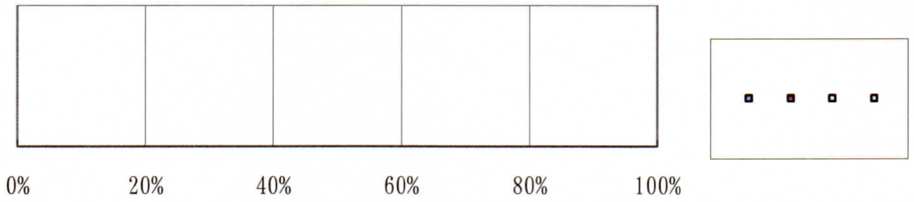


質問番号	質問事項
14	運動やスポーツをすることは好きですか



質問番号	質問事項
27	小学校1，2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが好きでしたか





成果と課題

児童の苦手意識はそのまま全国平均・大阪市平均より下回った体力運動能力の調査結果として表れている。また、「得意・好き」と「苦手・嫌い」の児童に二極化が見られる。体を動かすことそのものが楽しい・気持ちいいと実感できる取り組みが必要である。

今後の取組

外遊びや体育朝会を活用し、体力向上への意識を高める。「走」の種目について児童に目標を設定させて記録をとり、体力運動能力向上への意欲付けを図る。「走」の運動を重点として授業や遊びを計画的に行う。

トップアスリートによる授業や学級、学年、学校全体で運動を楽しむ集会活動などを工夫して設定し、仲間と一緒に運動を楽しむきっかけをつくる。